２０１８年（平成３０年）９月２４日　月曜日

東奥日報　１１面　掲載

光星 逆転サヨナラV

秋季県高校野球

最終日

秋季県高校野球選手権は最終日の23日、弘前市のはるか夢球場で決勝と3位決定戦を行った。決勝は八学光星が5―4で弘前東に逆転サヨナラ勝ちし、3年ぶり16回目の優勝を飾った。八学光星は春夏秋の3季連続県大会優勝を果たした。弘前東は県大会初優勝にわずかに届かなかった。3位決定戦は青森山田が八戸工を15―0の五回コールドで破り、残る1枠の東北大会出場を決めた。来春の選抜高校野球大会（センバツ）選出の参考となる東北大会は、10月12日から秋田県で開かれる。（本紙取材班）

弘東・澤田 粘投も力尽く

▽決勝（はるか夢）

弘前東	0	0	2	0	2	0	0	0	0	4
八学光星	0	0	0	0	1	0	0	0	3×	4

（弘）澤田、高藤 （八）山田、後藤、中澤

▽二塁打 武岡、下山（八）

【評】八学光星は2点を追う九回裏、先頭の3番武岡が右前打で出塁すると、続く近藤が単打、下山が二塁打を放ち1点差に。7番澤波の右前打で逆転、サヨナラに成功した。弘前東は主戦澤田が八回までに満塁のピンチを3度迎えるも失点に抑えた。粘り強く投げたが最後に力尽きた。

【弘前東―八学光星】9回裏、八学光星1死三塁、澤波が右前へサヨナラ打を放つ。捕手・齋藤

窮地で諦めず 王者底力

光星

「集中力なくなった」

○…弘前東の左腕・澤田は強打の八学光星を八回まで2点に抑え、2点リードで九回を迎えた。悲願の優勝まであとアウト三つだったが、光星打線に4安打を浴び、逆転サヨナラを許した。ピンチを迎え「集中力がなくなった」と悔やんだ。

九回裏、打者一人一人の執念の一打がつながった。劇的なサヨナラ勝利で3年ぶりに秋の県大会頂点に返り咲いた八学光星。窮地に立たされても諦めない、春夏王者の底力を見せつけた。

八回までに10安打とチャンスはつくるものの、エンドランなど課題はあけん制で刺されたり、満塁で最終打者が三振に打ち取られるなど流れを引き寄せられないでいた。

「頼むぞ」。あとがない九回裏、先頭の主将武岡は仲間の声に押され打席に立った。「目標は3季連続優勝。やってやろうと思った」。内角低めのスライダーを右前に運び、反撃ののろしを上げた。

続く4番近藤、5番下山も安打を放ち1点を追加。さらに6番原の犠飛で同点とすると、ベンチの盛り上がりは最高潮に達した。

1死三塁、「チャンスをつくってくれた」仲間の期待を受け、打席に入った7番澤波。1ボール1ストライク。甘く入ったスライダーを振り抜き打球を右前に転がした。

「浅いカウントだったから思いっきり振れた。出塁、出迎えた仲間と飛び跳ねて喜んだ。

主将武岡は「バント、エンドランなど課題はあるし、としながらも「勝てたことは次につながる。東北でも優勝して明治神宮大会（11月9日開幕）につなげたい」と強く誓った。（秋村有香）

九回は光星先頭の武岡に「気持ちを立て直すこと」とができなかった。次に右前に運ばれ、続く近藤に2ボールから左前にし、最後は澤波に、カウ行する中で迎えたピンチ逆転負け。「課題であるエースが次のステージで

9回裏、八学光星1死三塁、7番澤波の適時打で逆転、仲間に迎えられる三走・下山㊧

次は3季連続出場となる東北大会。今春は2勝し会は完璧な状態で臨みたい。まず1勝が目標」。の下山にも適時打を許チを取りにいったスラ終盤の集中力を練習試合の采配を誓った。

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです